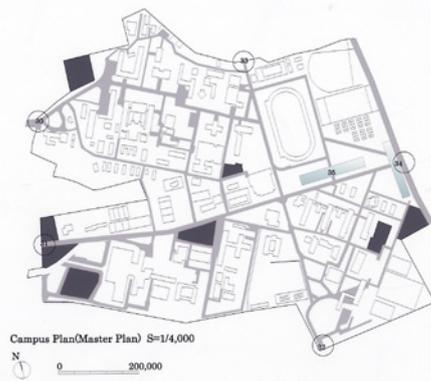




Union-texture ~三重大学の新たな門~ MIE UNIVERSITY DIPLOMA 2005 402742, RYO YABE



現状の分析と計画の推移 / analysis and process



1. 事務局
2. 教育学部
3. 教育学部附属教育実践総合センター
4. 共通教育校舎
5. 体育館
6. 第一体育館
7. 総合研究棟2
8. 学生自治会
9. 第一食堂
10. 図書館
11. 総合情報活用センター
12. 人文学部
13. 創造情報研究センター
14. 講堂 (三連ホール)
15. 新講義館
16. 国際学生生活センター
17. 実験棟
18. 医学部附属病院
19. 臨床研究棟
20. 医学部附属棟
21. 講義棟
22. 第二食堂
23. 工学部
24. 環境保全センター
25. 第二体育館
26. 医学部附属講義棟
27. サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
28. 三連会館
29. 総合研究棟1
30. 正門
31. 南門
32. 木造門
33. グラウンド
34. 西門
35. 総合教育棟
36. 駐車場

□三重大学の抱える問題

- 特に重要な問題である以下の3点について解決を目指す
1. 周辺環境を活かされていない
 特に立地的に優越する海岸部と大学が分離されているのは、全国的にも稀に類も無いとされる三重大学の特色として、大学での活動にとって重大な損失ではないだろうか。
 2. 「開かれた大学」の現状
 いくつもの大学がそうであるように、本学も「開かれた大学」をキャッチフレーズとして、地域共生の道を模索している。しかし、現状では構内において地域住民の姿を見ることが稀である。地域にとっての大学として、今後さらに教育・文化・研究の場としての役割が求められるのではないだろうか。
 3. 大学の組織について
 三重大学は医学部、教育学部、工学部、人文学部、生物資源学部からなる総合大学であるが、現在はそれぞれが独自に研究や活動を行い、また各学部間のつながりは希薄であるため、多くの学生はその成果や内容を知らずという意識は強いといえる。総合大学の特長である、広い視野を身につけられる、統合的な教育の場が設けられていないのである。

□要因と計画の手がかり

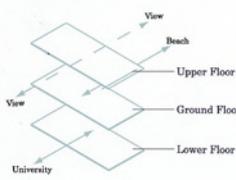
- 現状の問題の原因と解決の手がかりを模索する
1. 周知の通り、大学と海岸の間には埋立が整備されている。両者を分断する壁のような地形により、学内から海への視線が妨げられることなく、大学と海岸の精神的な距離を縮小させてしまっている。結果本来ならば有効に利用できるであろう海岸部の活動は抑制されている。海を意識できる場所と活動の拠点を意識したい。
 2. 市民にとっての大学は、大学側が考えているよりもはるかに数値が高く、海に開放されているという事実だけでは大学開放には不十分だと考える。加えて、現状での市民にとっての大学へのアプローチは国道23号線沿いの2つと大手にあたる水産門の3つしかなく、それらも複雑なキャンパスプラン、構内に設けられた車止めなどの影響もあり、気軽にご利用できるものではない。構内に明確な軸を通し、キャンパスプランを明快にする必要がある。
 3. 様々な専攻によって構成されている三重大学は、専攻ごとにそれぞれの拠点を持ち、活動・研究に励んでいる。しかし同時に専攻の者にとっては、気難に設けにくい気風もある。他専攻の活動内容が分からないのである。共通教育棟でも講義中の活動内容はうかがえず、これらは学生の学習意欲を高めるには良い悪い、それでも最低では他専攻の講義を受講する学生の姿も見られる。学生の潜在的な学習への要求が隠れてきたのである。大学を真に総合的な学習の場とするため、これらに対応する必要があると求められる。

□提案

- 以上の3点を改善するため、提案を行う。
1. 大学と海の接点
 現在都市計画で構想されている海岸道路（河原町島崎町）の整備を契機に、海岸門を計画する。同時に海岸門を臨む所に大学通りを計画し、現状の複雑なキャンパスプランを、大学通りを主要な軸とする構成に再構築する。
 2. 大学への誘致
 計画する大学施設では大学の教育・文化・研究の普及を目的とする。そこは学生の新しい滞在場所であると同時に、市民の文化活動の場となり、市民研究に代表される市民活動を数々行うを望む。従来のような大学が閉じた門を閉じて待つ状態ではなく、積極的な誘致を行う。
 3. 統合教育の場
 統合教育の場を大学通りに沿って配置し、学生の生活の場を移行する。また、統合教育は学生だけに留まらず、広く市民にも提供する。学生が市民から受ける影響も貴重である。



DESIGN/Sea side-tecture

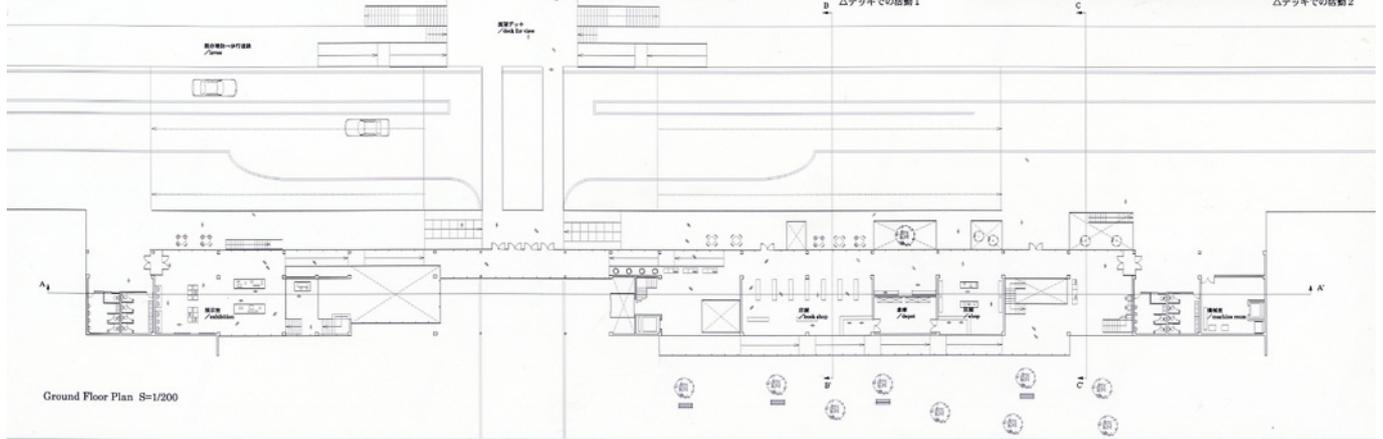


□ 3層構成
 大学から海岸へは既存堤防が壁のようにそびえ、断絶された状況である。両者をつなぐものとして、また海岸道路と大学との緩衝帯としての役割をもつ。
 現状における大学と海岸の分断の大きな要因である既存堤防に取り付く形で計画することで、従来は壁であった既存堤防が、海岸域での活動を展開する際の拠点となり得る。

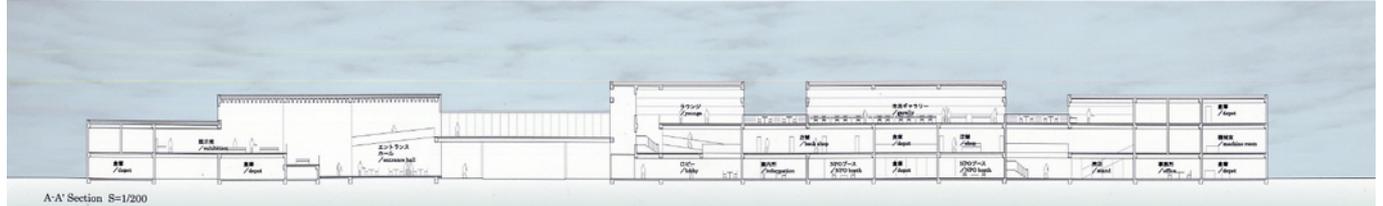


B △デッキでの活動 1

C △デッキでの活動 2



Ground Floor Plan S=1/200



A-A' Section S=1/200

Union-tecture

MIE UNIVERSITY
 DIPLOMA 2005
 402742, RYO YABE

開かれた視野/Sea side-tecture

三重大学には伊勢湾、さらに西には鈴鹿山麓と魅力的な景観が用意されているが、構内を歩いていても海は遠々と続く堤防の壁、山麓は立ち並ぶ校舎に遮られているため、それらを見ることはできないのが現状である。そこでこれらを意識する場をつくりたいと考えた。

新たな視野を開くことは価値あることである。ここでは大学が本来持ち合わせているにも関わらずこれまで発揮されてこなかった魅力を顕在化する。

もちろんそれは景観だけのことではない。学生の多くは今もなお、まちとの関わりは希薄である。お互いのことを知らず、関係を持たないでそれぞれの生活は完結している。しかしそれは、地域における大学のあり方としてふさわしくないと考え、我々は地域における大学の位置づけを再考し、意識を変化させる必要があるのではないだろうか。

本計画では、大学の掲げる「開かれた大学」には第一にお互いを知ることが必要であるとの考えから、主要な機能は市民開放を前提とした展示機能である。



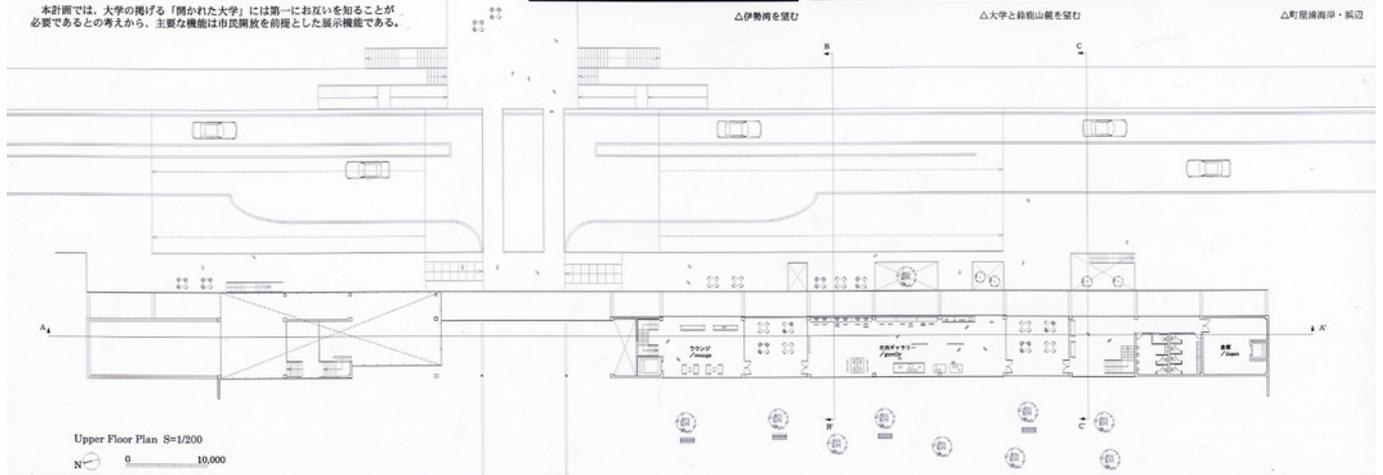
△伊勢湾を望む



△大学と鈴鹿山麓を望む

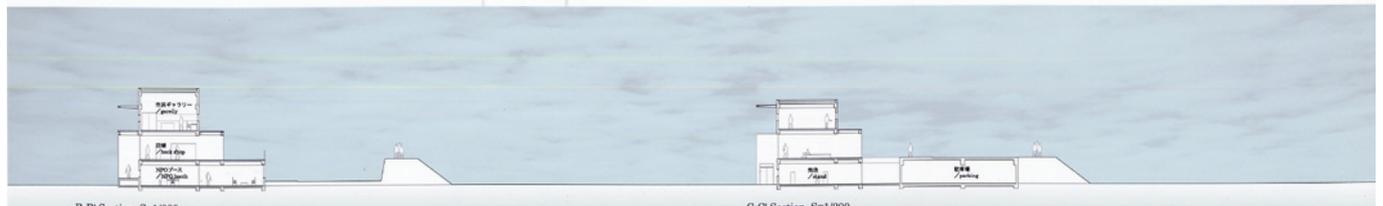


△町屋横断岸・浜田



Upper Floor Plan S=1/200

0 10,000



B-B' Section S=1/200

C-C' Section S=1/200

Union-tecture

MIE UNIVERSITY
 DIPLOMA 2005
 402742, RYO YABE

新しい教育の場 / Lecture Union

Lecture Union・・・統合教育棟としての学生会館を表す造語。

総合大学としての三重大学の新しい学習の場を提案する。
現状の大学教育は、各学部がそれぞれの学部棟で専門的な講義を行っている。それは至極自然であるが、同時に学部間の連携は「自分の学科以外の内容は何も知らない」状態を生み出している。今後、総合大学の特色として、己の学科以外の研究についても知り得る機会を与えることが要求されるのではないだろうか。

事実近年では従来の専門講義を他学部にも開放する例も見られるが、学生の参加意欲は多いとは言いがたい。これは内容への無関心以外にも、学生にとって他学部へ講義を受けに行くことが想像以上に容易でないことも原因ではないだろうか。また、大学での講義を広く市民に提供することも要求があり、今後さらに拡大すべき地域サービスではないだろうか。

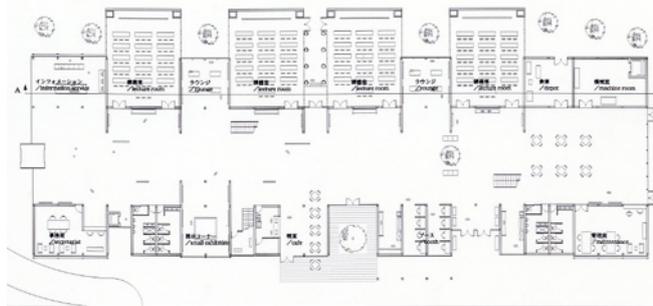
そこで大学通りの関連に伴い、それに合う場所に「統合教育棟」を計画する。
大学の特色である、文化・教育・研究をより開かれた形で学生・市民たちに提供する。



△内部アトリウムからの見上げ



△内部アトリウムからの見下ろし



1st Floor Plan S=1/200
0 10,000



大津市 / Faculty of Engineering



South Elevation S=1/200

統合教育のすすめ / Lecture Union

□新しい講義形態

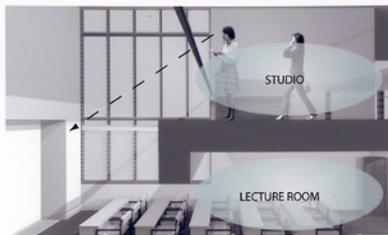
本学における既存の講義室は多くの場合、画一的な箱形の平行配置であり、講義中は中の様子をうかがい知ることはできない。当然学生の、「興味のある講義を覗いてみる」といった行為は起こらず、学習の場が広がることはない。

本計画では、右図のように「講義室」と「スタジオ」を隣接させる提案を行った。
「スタジオ」は学生の鑑賞・観作といった動的活動の場であり、その場で活動しながら関心のある講義を気軽に受けにいけるシステムをつくりだした。

□コーナー

大学での学生の集まり方を見ると、少人数で比較的小さなスペースに集まる例がよく見られた。そこで3m×6mを基本モジュールとし、それらを組み合わせさせた様々なコーナーをアトリウムに配置し、学生が滞在場所を選択する平面計画とした。こちらも展示機能があり、特に各学科での研究成果などを主に示す（南門はその総括的位置付）。

本施設は各学部から講義内容や研究成果といった従来固有であった要素を少しずつ集め、互いを理解するためのきっかけづくりの場とした。



△スタジオ+講義室 / 概図



△スタジオでの活動+講義見学



2nd Floor Plan S=1/200
0 10,000



A-A' Section S=1/200